

## [ご意見 27]

PTA 執行部の皆様、日頃のご奮闘たいへんお疲れ様です。

土曜日の臨時PTA総会での提案ですが、週刊ニューヨーク生活をはじめ、日系タウン誌及びGreenwich Time誌など、現地商業新聞社に意見広告を出しましょう。理事の名前

と会社名を連ねて、GJSがこういう状況に置かれていて、私たちPTAはこう考える。GJSを守るのだと、意見表明をしようではありませんか。きっと力になってくれる日本人・アメリカ人など、必ず隣人がいるはずですよ。

議決されても、契約までは約半月あります。やれるだけやりましょう。決してあきらめずに。他にも、訴訟なども視野に入れて…。こんなに子どもたちを愛し、拠点であるGJSを愛しているのですから…。

---

## [ご意見 28]

PTA タスクフォースの皆様、いつもありがとうございます。

9月23日の理事会での売却決定に関する説明レターが届きましたが、相変わらず自分に都合のよいことしか書いていない内容にあきれ果てる思いです。

特に、相手校に売却しなかった場合の違約金に関するリスクのことが一言も触れられていない点は、これが本当に理事会で取り上げられた内容なら

また事実を隠して事を進めようとしていることになります。違約金云々の話はこれまで一切保護者に説明がなされておらず初めて出てきた話ですがこれを活字にしないのはそれを活字、文章にしたいくない意思が働いているからでしょう。説明責任の欠如という点で言えば、BSA 案不採用の理由についても同様、採用・不採用以前に検討したかどうか分からない内容です。

齟齬の状態が続いたままの会計問題も、説明会後に再説明すると約束しながら PTA 案とは歩み寄れないという一言で片付ける傲慢さ、いや開き直り。

そして何より残念なのが、本日発行の週刊 NY 生活で目にした、ある理事の「校長先生の反対は、教育的立場からの反対ではない。忠告と受け止める。」という発言。この発言が事実であるとすれば、驚天動地で一体校長先生が教育的立場以外のどの立場からこの問題に向き合われ、発言されているというのか、これは詭弁、詭弁でなければ勝手な思い込みでしょう。結局数字にしても、何にしても審議会の勝手な思い込みで事が進んでいくばかりです。今後の対応についても相変わらず”出来る限りの努力””誠意を持って”という言葉で巧みに利用して説明されていますが、審議会の言う”努力””誠意”が如何に信用できないものかは、保護者の大半が身を持って体験しているところで、今後の対応に不安ばかりが募ります。特に怖いのは、今後審議会が進めようとしている全ては実は裏で決まっておき、また保護者の話を聞くふりをしたまま裏切るのではないかということです。

今後の対策ですが、NY 総領事としての立場の安藤大使へ PTA として校舎売却決定という理事会の決定を撤回、乃至凍結させる意思を表示すべく嘆願書を提出してはどうでしょうか？（嘆願書提出の際には、CC TO 外務大臣、文部科学大臣、あとコピーを在 NY の日系マスコミにも送付）

勿論、大使が審議会の名誉理事であり、且つ理事会では中立的立場を取っておられるということは承知の上ですが、この審議会の理不尽な行動を止めるにはやはり政治的圧力が必要で、現実にはそれから出来るのは大使しかおられないのではないかと思います。（他に適任の方がおられれば、その方をお願いしてもよいでしょうが。） 次の総会までにもう少しアイデアないか頑張ってみてみたいと思います。